HOMAS BARRE

Hokkaido Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会

No. 74

平成27年(2015年)3月15日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666

発行人 中垣正史 E-mail mnakagaki@jcom.home.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち(29)

北海道開拓期の官営工場設置から民営工場の建設へ

―札幌市東苗穂地区の産業遺産群(その1)「福山醸造」の創業と発展の歴史―

■ まえがき

北海道の近代化は、明治政府の開拓使設置(1869・明 2)により本格的な歴史を刻みはじめます。初代判官島義勇、第2代判官岩村通俊の先見の明と、続く開拓次官(のち長官)黒田清隆(1840-1900)のすぐれた指導力により、総顧問のホーレス・ケプロン(1804-1885)をはじめ、多くの米国の先進技術・教育の専門家が招かれて、各分野の開拓事業が進められました。・・・(ここまでは、本シリーズの枕詞のような毎回の「まえがき」です。)

今回は、開拓使が、総顧問ホーレス・ケプロンの献策により、北海道工業発展のために、さまざまな官営工場を建設した、札幌の所謂「工業ゾーン」から歴史をひも解いてみたいと思います。

当初、東京の官園内に建設予定であった「麦酒醸造所」が、官園の事業責任者村橋久成(1842-1892) の提言が認められて、村橋久成と麦酒醸造技師中川清兵により「開拓使麦酒醸造所」(1876・明 9-今日のサッポロビールの原点)として誕生しています。「開拓使葡萄酒醸造所」「開拓使製糸所」などの開拓使諸工場の設置には、黒田清隆が若き日に薩摩藩で経験した近代科学重視の考え方も反映しているといわれています。

今日、札幌市東区苗穂に、北海道の産業遺産とされる「サッポロビール博物館」「福山醸造」「北海道鉄道技術館」(JR 苗穂工場)「雪印乳業資料館」などの工場・記念館群があります。こうした施設が苗穂地区にあるのは、この地域が、創成川・伏古川と豊平川にかこまれた土地で、豊富な伏流水も利用できる立地条件により開拓使時代から官営工場がつくられ、その北海道産業発展の基盤が受け継がれて、今日の「創成川イースト〜苗穂」の工業ゾーンを形成してきたと考えられます。

今回は、日本人の食生活になくてはならない味噌・醤油醸造にスポットを当てて、民営企業として誕生し、今日、全道一の発展を続けている「福山醸造」の歴史を掘り起こしてみたいと思います。

■ 官業工場の設置と払い下げ

ケプロンは、ワーフィールドらに北海道の現地調査をさせて、1872年(明治5年)1月の「開拓使顧問ホラシ・ケプロン報文」で、札幌は無尽の水力に恵まれているので、官営の生産工場を設置して機械化を進めるべきことを進言します。開拓使はケプロンの意向を踏まえて、市内大通~北1条、東1丁目~4丁目の約3町四方を工業課管理地として、アメリカ人指導のもとに米国輸入の水力・蒸気機械を設置した機械工場を建設します。こうして、機械・器具製造をはじめ、農作物や麻・繭などの札

幌紡織所・加工工場などの官営工場が、ほとんど札幌に集中して設けられます。その他に、製紙所、 製油所、馬具製造所、製革所、製網所。さらにアンチセルの北海道野生ホップの発見もあり「開拓使 麦酒醸造所」(明 9, 9)、「葡萄酒醸造所」(明 10, 9) なども設置されます。

1872 年(明治 5 年)6 月建設に着手、「蒸気木挽器械所」の建設・増改築を重ねて、円鋸・廻挽鋸・ 鉋鑿柄付鋸などの洋式鋸数基を設置しています。さらに創成川の水を引いて「水車器械所」、「煉鉄所 (鍛工所)、「鋳造所」、「木工所」、「製鉄所」などを建設していきます。1879 年(明治 12 年)には、厚別 水車器械所も建設されています。開拓使の工場は札幌のほか、函館、室蘭、石狩、根室、択捉島な ど各地に40以上も建設されたといわれます。

これらの官営工場の建設・経営の指導者には、N・W・ホルト(器械運転)とサンドフォード・クラーク(同助手)、マッティアス・ワーブ(革鞣師)、ユリセス・S・トリート(魚肉缶詰製造・鮭鱒孵化)とトレスコット・スェット(同助手)などのアメリカ人技術者が迎えられています。

<「水車器械所」は、冬期3か月間、創成川の水が凍って水車運転が不能になったそうですが、黒田長官がこの現状を見て、幾人かの人夫を使って厚氷を伐り流したところ、流水は平常のようになり水車の運転も出来たという話も残っています。>

これらの官営工場は、北海道の工業発展の基礎づくりに一定の役割を果たしましたが、営業成績は一般的に不振で、後に北海道庁により廃止あるいは民間に払い下げられていきます。

北海道では、屯田兵村に耕作させていた大麻の利用した製麻工業については、開拓使時代から企画されていましたが、1887年(明治20年)5月、札幌に「北海道製麻株式会社」が設立されます。道内産の亜麻原料は、雁来・琴似・当別・新十津川・栗山の工場で「製線」(亜麻の皮を取り除く工程)を行い、札幌の製品工場で麻糸紡績・麻織物製造の製造工程をおこなったといわれます。日清戦争期には軍需品として亜麻製品の需要が急増し、全国の製麻工場はフル操業で生産を増大させたのでした。当時、北海道製麻のほかに全国には近江麻糸紡織(明17,6設立)、下野麻紡織(明20,11)、日本織糸(明29,1)がありました。1903年(明治36年)7月に、北海道製麻を除く3社が合併して日本製麻株式会社となります。その後、日露戦争後の需要減退期には再び合併機運が高まり、1907年(明治40年)7月、北海道製麻と日本製麻が合併して、「帝国製麻株式会社」となります。

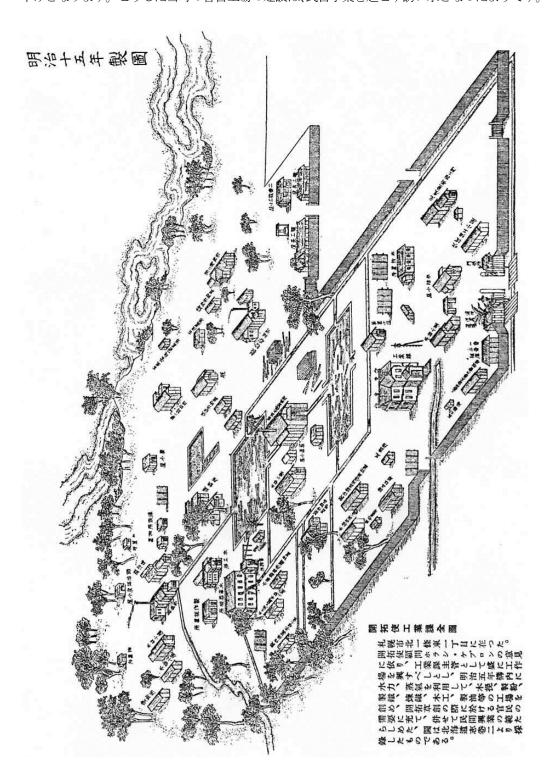
そして、「北海道製糖工場」(明治23年)も建設されますが、原料ビートの耕作が思うように進まず、1896年(明治29年)事業を中止、1901年(明治34年)に解散しています。この工場は、明治36年、サッポロビールに買収されて新たな歴史をたどります。そして、1966年(昭和41年)、「開拓使麦酒記念館(博物館)」となり、札幌の残り少ない赤煉瓦の建物として、今日も人々に親しまれています。

また、エドウィン・ダンなどの指導により、有畜農業・酪農が次第に重視され広まって、牛乳や乳製品への認識も高まり、1914年(大正3年)、「北海道練乳株式会社」が設立され、1925年(大正14年)には、酪農家が集まって「北海道製酪販売組合」(→雪印乳業)が結成されていきます。

さて、官営の味噌醤油醸造所としては、1871年(明治4年)、開拓使御用達で、従来豆麦の生産地である篠路村に「篠路村醤油醸造場」ができます。そして1877年(明治10年)には、「札幌第一味噌醤油製造所」(醤油製造所-空知通・北6西1、味噌製造所-厚田通・北2東3)が設置されていますが、経営が長く続かず、翌明治11年に、篠路の醸造所は澤口永将に払下げになりますが、経営不振により、1889年(明治22年)に改めて笠原文平「角一合名会社笠原商会」に払い下げられています。一方、札幌の醸造所は対馬嘉三郎「興成社」に払い下げとなります。

1879年(明治12年)6月、開拓使は、幌内炭鉱開削開始による需要増に備えて、再び官営の「札幌第二味噌醤油製造所」(東創成町・北5東1)を設置していますが、これも、1885年(明治18年)、森弥市に払

下げとなります。こうした当時の官営工場の建設は、民営事業を起こす誘い水となったようです。



■ 民営工場の建設~福山醸造の創業

一方、民営の味噌醤油醸造業として官営払下げを受けた対馬嘉三郎は、「第一第二味噌醤油製造所」の経営を軌道にのせます。対馬嘉三郎は開拓使役人退官者ですが、すぐれた事業家でもあり、後に札幌区長・衆議院議員なども務めています。対馬嘉三郎の「興成社」は順調に業績を挙げて、札幌の味噌醤油醸造業界の重鎮となっていたといわれます。この開拓当時は、日本人の食生活にとって大切な米味噌醤油など主要食糧のほとんどすべてが、内地から船で運ばれていました。醤油の需要も札幌の開発が進むとともに急増していましたので、開拓使も「米味噌」などを重要視していました。その他の民営工場としては、「マル竹齋藤甚之助味噌醸造場」(明治20年1月)、「ヤマト巴醤油醸造場」(福山甚三郎)(明治24年11月)があります。

福山醸造は、1891年(明治24)11月、北前船の回船業を営む福井の福山甚三郎が、現在の札幌駅前に醤油工場(北4条西1丁目・第1工場)を建設し、「福山商店」として創業したのが始まりといわれます。その後、福山商店は、生産量を拡大し、1918年(大正7)10月、現在地に苗穂に第2工場を建設して、「福山醸造」(東区苗穂町2)として今日まで稼働しています。豊富な北海道の大豆と地下水を利用して味噌・醤油を醸造、加工食品の販売を継続してきました。当時のレンガ造りの建物は醤油を発酵・熟成させる温醸蔵として現在も使われています。「トモエ醤油」の生産量は道内トップで、160種類の醤油が全国で販売されているといわれます。

巴のマークは、創業当初からのもので、現在も商標として使用されています。巴(トモエ)は神社の紋章、アイヌの紋章、そして函館港のしるしでもあるという普遍性に関連付けて選ばれたといわれます。巴は「左巻き」「右巻きがありますが、商売としては左巻きは縁起がよくないということで右巻きにして、「一つ巴」「二つ巴」「三つ巴」を合わせた形が使用されています。

■ 創業者~福山甚三郎の生い立ち

福山甚三郎(1849-1914)は、代々航海業を営む福山甚五郎の長男として、1849 年(嘉永 2 年)1月22日、福井県坂井郡新保村に生まれます。甚五郎は、1881年(明治 14 年) 航海業をやめて小樽で回船問屋を開き、京都・大阪から下関を経由して日本海沿岸を回りながら各地の産物を商っています。さらに、佐渡の味噌や秋田の米などを買い付けて蝦夷地で売りさばき、蝦夷地では岩内、小樽、利尻までも足をのばしてこの地の産物を買い付けて内地へ運んでいました。こうして、福山家と蝦夷地とのつながりが生まれたようです。しかし、甚五郎は 1886年(明治 19年)、59歳で亡くなります。

甚三郎の実弟の米吉は、1883年(明治16年)に渡道しており、1886年(明治19年)になって札幌で荒物店(南2条西2丁目)を創業します。甚三郎は、父甚五郎のあとを継いで、回船問屋として「昌壽丸」「神力丸」など数隻の帆船を持って蝦夷地への回船業を営んでいましたが、1890年(明治23年)5月、利尻沖で大時化に遇い所有の商船と先代が片腕として信頼を置いていた弥助老人を失って衝撃をうけたのでした。その後甚三郎は、陸に上がる決意をして、1891年(明治24年)11月札幌で、米吉の勧めをうけて、醤油醸造業の「福山商店」(北4条西1丁目)を創め、確固たる基礎を固めます。そして後継ぎとなるべき長男甚作(後の2代目甚三郎)を大阪高等工業学校の醸造科に進学させています。この2代目が、やがて福山商店における新しい技術の導入と製品開発を進めることになります。甚三郎は、1914年(大正3年)8月4日、66歳で死去していますが、温譲質実の人、巴印醤油ひとすじの生涯でした。「才子才をたのみ、愚は愚を守る。見よ多年成業の後、才子才ならず、愚は愚ならず」を座右の銘とし、終生自らを「守愚」と称したといわれます。

1887年(明治20年~)代当時の札幌の人口は、約26,000人であったといわれます。当時は、生活用品の大部分は本州地方からの移入に頼っていて、味噌醤油も主に津軽佐渡などから輸入されてい

たといわれます。福山商店の醤油醸造は、その諸味の発酵に約2年以上を要するため、実際に市場に売り出したのは、1894年(明治27年)過ぎからのようです。

その後、札幌の醤油醸造所も次第に増えて、1899年(明治32年)3月「札幌醤油製造組合」が設立され、組合員数16名であったといわれます。1912年(明治45年)には29名に増えています。また味噌の方は少し遅れて、1908年(明治41年)に、会員数15名で「札幌味噌製造組合」が設立されています。

■ 2代目甚三郎~最新設備の第2工場を建設

長男甚作(1883-1974)は、1883年(明治16年7月24日、福井県新保浦の生まれで、13歳の時に従弟の福山米太郎とともに進学のため、札幌に移住しています。その後札幌中学校(現南高校)から大阪高等工業学校(現大阪大)醸造科へ進み、日本最先端の醸造技術を学んでいます。1905年(明治38年)7月卒業、1年志願兵(一定の教育を受けた者の中から志願により、費用自弁で短期服役させ予備幹部に任用した、陸軍の兵役制度)の軍隊生活を送ります。1907年(明治40年)除隊後、父甚三郎を助けて「ヤマト福山商店」の醸造技術改良に取り組みます。

甚作は、1914年(大正3年)8月父の死去により、「2代目甚三郎」を襲名します。2代目甚三郎は、折につけて野田・龍野・小豆島・半田・北陸地方などの名醸地を視察して、内地品を凌駕するような品質優良な醸造に努めています。

当時は、内地味噌・醤油の移入は依然として多く、味噌は青森・新潟・長野から、醤油は野田のキッコーマンや銚子のヒゲタ、ヤマサなど道内向けが多かったようです。しかし、福山商店も次第に道内全域、特に室蘭線沿線・夕張・幌内の炭鉱地帯や上川・留萌地方に販路を拡大し、さらに樺太まで移出するようになっていきます。1997年(昭和43年)、旭川の千代田醸造とともに「北海道味噌株式会社」工場を設立して味噌製造の拡大をはかってています。

さらに、1918年(大正7年)には、苗穂に第2工場を建設して経営規模の拡大をはかっています。この第2工場は、ボイラー・大豆蒸煮缶・小麦炒機・諸味撹拌装置・水圧機等の最新設備を備え、技術研究の試験室も設置した近代的な工場でした。

1918年(大正7年)は、開道50周年の年で、北海道の人口217万人、札幌市の人口は95,000人でした。このころの醤油醸造所数は、札幌で約50、全道では、約260を数えるほどになっています。1926年(大正15年)11月、全国醤油醸造組合連合会が』結成され、その加盟組織として北海道味噌醤油醸造組合連合会が発足しています。

やがて、第2工場の生産が本格化するにつれて、味噌醤油とも生産の主力はこちらに移り、第1工場は製品倉庫として転用されます。1935年(昭和10年)9月、第1工場の生産を停止して、生産設備のすべてを苗穂の新鋭工場に統合し、本店機構も移転します。そして、10月からは、駅前の第1工場の建物は、「株式会社福山倉庫」となります。

第2 工場のある苗穂地域は、水質もよく土地も広々とした環境で、敷地内に小公園を作り近隣住民にも開放して喜ばれたそうです。2 代目甚三郎は消費者との結びつきをつよめるために、名入の醤油注ぎなどの記念品を配ったり、絵はがきや醤油の知識パンフレットを配布したりしたといわれます。また、昭和初年のころ、今日の PR 誌、「家庭」と題した刊行物を 5 年余にわたって発行しています。当時としてはきわめて異色のものでした。また、第2 工場で生産開始した「小判味噌」がヒット商品となります。こうした積極的な経営・販売により、順調に全道各地への売り上げを伸ばして、常に業界の北海道トップを占めてのいたようです。

しかし、1935年(昭和10年)代後半は、日中戦争の拡大による物資の不足、物価統制の厳しい戦時体制に組み込まれていきます。新しく全国醤油工業組合連合会・全国味噌工業組合連合会の発足に

より、北海道味噌醤油工業組合連合会が組織され、福山甚三郎が理事長に就任。さらに北海道味噌醤油統制株式会社が設立されて、同じく社長に就任しています。こうして戦況が次第に厳しさを増していく戦時体制の中での努力を強いられたのでした。こうした統制時代は戦後もしばらく続き、1950年(昭和25年)ころになって、長い統制時代にピリオドが打たれ、次第に自由競争時代に移行したといわれます。

この頃には、福山醸造も、生産体制を完全に回復して、新しい自由競争時代に向けて体力を整えていました。創業60周年を迎えた1951年(昭和26年)11月に、社名を「トモエ醤油株式会社」に変更して企業イメージを一新しています。

■ 2代目甚三郎の死去~3代目福山卓爾へ

北大農学部卒業後、旭川の合同酒精で修行していた甚三郎の長男卓爾(養子:米吉孫)は、1950年(昭和25年)に入社しており、新風を吹き込んでいました。そして、1955年(昭和30年)には、社名を「福山醸造株式会社」として、醤油メーカーだけではなく、味噌醤油兼業の総合メーカーとしてイメージを一新しました。

1967年(昭和42年)には、福山卓爾専務が、すでに84歳の高齢に達していた社長の2代目甚三郎に代わって、一連の近代化事業をすすめ、1972年(昭和47年)には甚三郎が会長に退き、卓爾が社長に就任して、3代目社長の時代がスタートします。

2代目福山甚三郎は、1974年(昭和49年)7月、91歳の長寿を全うして死去。大正初年から、戦時 統制時代、戦後の混乱期を乗り切って道内業界のリーダーとして活躍した生涯でした。紺綬褒章・ 藍綬褒章・勲6等瑞宝章をはじめ、札幌市開拓功労者・札幌市産業経済功労者などの表彰を受け、 没後には勲4等瑞宝章を贈られています。

ゲーテの「継続は力なり」を座右の銘とし、「多事をなすの秘訣は即座に一事をなすにあり」を身上として万事に情熱を注いだ人生であったといわれます。この自分に対する厳しさとは対照的に、他人に対しては包容力のある春風駘蕩とした雰囲気を持っていたようです。NHKのラジオ体操の推進者として全国に知られ、放送が始まった1932年(昭和7年)以来、1日も欠かすことなく自ら先頭に立ってラジオ体操をつづけたそうです。その功により、1969年(昭和44年)にはNHK放送文化賞を受賞しています。

新しい時代に向けて、積極的な販売市場の拡大をめざして、いろいろな新商品の開発に力を入れていきます。1975年(昭和50年)代に発売した「仕込みそ」「田舎みそカップ」が評判を博し、大きく需要を伸ばして、全農・ホクレンを通じて全道の農協へ販売し、さらに灘神戸生協へも販路を拡大して、高い人気を得たといわれます。近年の食品添加物に対する認識の高まり、本物・手作り志向など、消費者の意識の大きな変化に呼応した、北海道産大豆・赤穂の天塩を使用した高級品の「生仕込みそ」や加工味噌の「だし入りみそ」、本州向けの「好きですさっぽろみそ」など、又加工食品の新製品開発で、これからの市場競争に挑戦し続けています。醤油も、最高級のこいくち「一番しばり」や、食塩を半減した「減塩しょうゆ」などを開発しています。

福山卓爾社長は、1974年(昭和49年)2月「北海道味噌醤油工業協同組合」の理事長として厳しい業界をリードし、さらに1988年(昭和63年)5月には「全国味噌醤油工業協同組合連合会」の会長に就任し、全国の同業者の舵取り役を勤めました。

福山醸造は、1991年(平成3年)、創業100周年を迎え、醤油工場は、2004年(平成16年)11月、「札幌苗穂地区の工場・記念館群」として北海道遺産に認定されています。 さらに2007年(平成19年)11月には、経済通産省より「札幌市の醤油醸造関連遺産」として近代化産業遺産群に認定されています。

■ 4代目福山浤社長~5代目福山耕司社長へ

次いで、1995 年(平成 7 年)2 月、初代甚三郎の次男甚之助の孫福山法(1944-2001)が 4 代目社長、2001 年(平成 13 年)1 月、3 代目卓爾の長男福山耕司(1953-)が 5 代目社長となって、今日に至っています。この間、1991 年(平成 3 年)より発売の「トモエ日高昆布しょうゆ」シリーズと「田舎みそカップ」が北海道内を中心に販売を拡大し、トモエブランドの地盤をかためたといわれます。

また、食品安全・安心の品質マネジメントシステムの国際規格「ISO-9000」取得による優れた品質管理による顧客満足度向上に努め、北海道産の原料のこだわった新商品の開発が進められています。現社長のモットーは、「過去に縛られず、今の自分達に何ができるのかを考える。」としています。

平取産の完熟トマトのフルーティーな味わいを生かした「平取トマト醤油」、由仁商業高校の生徒が考案した、栗山特産の健康玉ねぎにバジルなど3種類のハーブを加えた「愛郷ドレッシング」の商品化など、時代のニーズにあった新感覚の商品開発も進めています。

■ 福山醸造を記念するもの

- ★旧福山商店第2工場(札幌市東区苗穂町2丁目4-1)
- ★Café ロッソ(旧福山醸造店)

明治40年代に福山甚三郎の息子米太郎によって建築された といわれる。レンガ造り寄棟屋根の建物は、北3条通りを挟ん で旧開拓使麦酒醸造所(サッポロファクトリー) 北側にあります。

★福山醸造の工場見学

本社屋の歴史博物館ともいうべき「資料室」、トモエ醤油工場の 製造工程やレンガ造りの醤油蔵などを見学できます。福山醸造 の直売所もあります。(要予約、通年の月~金、苗穂駅徒歩10分)



福山醸造株式会社本社の資料室

■ あとがき

これまで、札幌の産業遺産関連では、「HOMAS」の原稿として、村橋久成の「開拓使麦酒醸造所→サッポロビール博物館」や黒沢酉蔵の「北海道製酪販売組合→雪印乳業株式会社」を取り上げて書いてきました。

「福山醸造」については、今回の執筆にあたりまして、資料を読み進めて、創業以来の醤油・味噌ひとすじの歴 史に心を打たれました。北海道の大事な食文化を担ってきたその歴史に感動しました。

先日の本社訪問では、企画開発課の森清史さんのご案内で、福山醸造の創業以来の歴史が凝縮された本社「資料室」や醤油工場の製造過程を見学させていただきました。札幌駅から約5キロという至近距離に明治からの貴重な歴史が生きていることを実感しました。(執筆担当:中垣正史)

<主な参考文献及び参考資料>

□「概説 - 札	幌のあゆる	み」札幌市	文化資料室	編集発行	2011年		札幌時計	├台創建−	-三五周年	記念誌
「札幌ものがた	り」NF	O法人さっ	ぽろ時計	台の会編集	時計台ま	つり実行	行委員会	発行 20	13年	
□ 「草創時代	に於ける	札幌の工業	」吉田:	寧編集 札	幌商工会議	所発行	昭和11	年 🗆	「東区今昔	1」 札
幌市東区役所統	総務部総系	解発行 昭	3和54年	□ 創業配	1年記念誌「	百年の	歩み」福	汕醸造株	村会社企	画部創
業百年記念誌終	編集委員会	€編集 株式	大会社福山	倉庫・福山	醸造株式会	社発行	平成 3 4	ロスタイプ ロココ ロコ ロコ コ ロ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ	「善念録」	-福山
甚之助を偲ぶ	福山醸造	株式会社社	t長福山甚.	三郎編集発	行 昭和33	3年	□「新村	1幌市史_	」第二巻通	史二・
第三巻通史三	札幌市教	放育委員会網	編集 札幌	市発行	□「新聞	と人名釒	録にみる!	明治の札	幌」 札幌	市教育
委員会文化資	料室編集	北海道新	聞社発行	□「開	拓使時代」	さっぽ	ぱろ文庫	50 札博	沛教育委	員会編
北海道新聞社	発行	「北海道の	歴史」下 :	近代·現代網	幕 北海道籍	所聞社発	行 🗆	インター	-ネット資	料など

平成 26 年度 第3回 国際交流ランチセミナー 資料集

今回は、都合により中止しましたので、ここには、資料集の概要をご紹介します。

"HINAMATSURI" Dolls' Festival

HOMAS 2015 International Exchange Luncheon 11:00~14:00 Sunday February 22, 2015 at Restaurant "Lupinus" Sapporo SUMIRE Hotel Hokkaido Massachusetts Society

Tradition for Girls Dolls' Festival

On March 3, Japanese people have a unique traditional event, called *Hinamatsuri*. Parents who have young daughters celebrate by displaying beautiful *hina dolls*.

Dolls at home are to pray for their daughters' good health, long life and happiness. *Hina* dolls traditionally consist of 15 dolls, including an emperor and empress. All dolls wear beautiful court dress.



ひな祭りは、古くは「上巳の節句」(弥生の節句)などの呼び名があり、五節句 (「人日](七草がゆ)1月7日、「上巳(桃の節句)」3月3日、「端午」(菖蒲の節句)5月5日、「七夕」(星祭)7月7日、「重陽」(菊の節句)9月9日)の一つにあたります。女の子がいる家では、その健やかな成長を願って、この時期にひな人形を飾り、白酒や桃の花を供えてお祝いします。

ひな祭りの起源は、中国までさかのぼれるとされています。漢の時代の徐肇(じょちょう)という人がおり、3人の女児をもうけたにも関わらず、3人とも3日以内に死んでしまいました。その嘆き悲しむ様子を見た同じ村の人たちが酒を持ち、3人の女児の亡骸を清めて水葬したことに由来しているとされています。それが平安時代になると、「上巳の祓い」といって、3月3日に陰陽師を呼びお祓いをさせ、自分の身に降りかかる災難を自分の生年月日を書いた紙の人形(ひとがた)に移らせて川に流しました。この厄払いの様子は今でも下鴨神社で行われる「流しびな」の行事に再現されています。

また、平安時代の貴族の女子のおままごと「雛あそび」の風習とも結びついて、室町時代になると人形も立派になり、人の厄を流すものから飾るものになり、上流階級の子女の嫁入り道具のひとつにもなりました。 紙のひな人形から、次第に豪華なひな人形になっていきます。また、ひな壇を設けるようになったのは、江戸中期ころからで、それまでは畳に直にじゅうたんを敷き、人形や調度を飾っていたようです。

今日では、マスコミの宣伝もあり、全国的に賑やかに行われています。

ひなまつり

ひな祭りは、3月3日、女の子の成長や幸福を願う行事です。女の子のいる家庭の多くは雛人形を 飾り、桃の花やひなあられ、菱餅、白酒などをひな人形に供えます。

ひな祭りの起源は、身のけがれや災いを人形に移し、川に流して厄払いしたという古代中国の風習にあります。これが日本に伝わり女の子の人形遊びと結びつき、江戸時代(1603~1867)からは、ひな祭りとして行われるようになりました。

Dolls' Festival:

Hinamatsuri occurs on March 3 and is an occasion to pray for young girls' growth and happiness. Most homes with girls display dolls for the Dolls' Festival and offer to them peach blossoms, rice cake cubes (hina-arare), special colored and diamond-shaped rice cakes (hishi-mochi9, white sake (shirozake), and other items.

The origin of *hinamatsuri* is an ancient Chinese practice in which impurities and misfortunes were transferred to a doll and washed away by setting the doll in a river to drift away. When this practice spread to Japan, it was linked to girl's playing with dolls and, in the *Edo Period*(1603-1867). it was developed into the *hinamatsuri*.

ひな人形

「ひな」とは、女の子が遊ぶ小さな人形で、平安時代(794~1185)からありましたが、江戸時代に現在の形になりました。

赤い毛氈(もうせん)を敷いた5段・7段飾りで、最上段には天皇・皇后を模した「内裏びな」、以下「右大臣・左大臣」「三人官女」「五人ばやし」などが各段を飾ります。

しかし、最近では簡略化して、「内裏びな」だけを飾る家庭も増えています。

Dolls for the Dolls' Festival:

Hina are small dolls for girls and have existed since the *Heian Period*(794-1185). They took

their present form in the *Edo Period* (1603 -1867).

A "doll Emperor and Empress in ancient costume", patterned after the Emperor and Empress, are placed on the highest tier of a five-or seven-tiered stand covered with a red carpet, and under them come the "Minister of the Right, Minister of the Left", the "Three court Ladies", and the "five court musicians", among others.

However, in recent times, more and more homes have simplified this by setting out only the *Emperor and Empress dolls*.

参考:ひなまつり英会話の例文

- A The hina dolls are very beautiful.

 Look how many there are!

 What period are the costumes from?
- B They are Heian court costumes.
 The dolls on the top shelf represent the *Emperor* and *Empress*.
 And, on the second shelf are *three ladies in waiting*, *five court musicians* are on the third shelf,
 on the fourth are *government ministers*, and on the bottom shelf are three *court officials*.
- A Does every family have such a beautiful set of dolls?
- B No. Many people have smaller and simpler sets of dolls, depending on the size of their house.

And there are regional differences, too. In some areas *nagashibina*, the custom of floating dolls down the river, still exists.

ひな人形はとてもきれいですね。 ずいぶん沢山あるんですね! あの衣装は何時代のものですか?

平安時代の宮廷の衣装です。 最上段の人形が 天皇と皇后をあらわし、 二段目には三人官女、

三段目には五人ばやし、

四段目には随人(ずいじん)、 そして最下段には 三人の衛士(えじ)がいます。

どこの家にもこんな立派な 人形があるんですか?

いいえ。多くの家では、 家のサイズに合わせて小型化、 簡略化しています。

また、地方によって違いがあり、 人形を川に流す *流しびな*の 風習がまだ残っている ところもあります。

小樽商科大学グローバル教育

「グローカルマネジメント副専攻プログラム」について

小樽商科大学学生支援課国際交流室

1小樽商科大学の「No.1 グローカル大学宣言」

本学は、かつて北海道開拓時代の商業的中心であり、日本の主要港の一つでもある歴史的都市小樽に位置しており、海外貿易を振興するため、1911 年に小樽高等商業学校として小樽に設立されました。本学の教育は、創立以来、実践との関係を保ち、かつ国際的視野を持つことを重視し、各界で活躍する卒業生を多く輩出してきました。それが「北に一星あり、小なれどその輝光強し」と謳われる由縁です。

平成25年8月8日、本学は文部科学省が公募した「平成25年度 地(知)の拠点整備事業」(COC事業)に採択されたことを受け、小樽商科大学「No.1 グローカル大学宣言」を出しました。この宣言については、平成26年4月から第10代小樽商科大学長に就任した和田健夫学長の挨拶に詳しく記されています。

(小樽商科大学長 和田健夫学長挨拶「No.1 グローカル宣言」によせて)

21 世紀はグローバリズムが支配する社会であり、大学にはそのような時代を支える人材の育成が期待されています。グローバリズムとは、一言でいえば、経済社会の効率化・同質化・単一化が地球規模で進行するということです。しかしながら、それは、ある日突然に到来するものではなく、国や地域の間での交渉・交流を通じて形成されるものです。グローバリズムは、国や地域の観点から考え行動し、他の国や地域と共存・協働する人々の力によって担われるべきなのです。

グローバル時代に求められる能力は、グローバル(地球規模)な視野で、ローカルに(地域の視点から)考え行動できることであり、本学が目指すのは、そのような能力の育成です。宣言の中で「グローカル」という、グローバルとローカルをつなぎ合わせた造語を使用しているのはそのことを示しています。また、「No.1」と謳っているのは、グローバル人材育成において、全国の社会科学系の大学や学部の先導となるという本学の願いが込められています。

今後、この宣言に基づいて、カリキュラム改革や教育研究組織の再編を行い、地(知)の拠点整備事業を推進いたします。そこでは、本学の優れた基礎的研究成果に加えて、長い歴史と伝統をもつ実学教育の経験、百年にわたる語学教育の実績、産学官連携・地域研究・ビジネススクール教育で培われた北海道の企業・自治体等とのネットワークが投入される予定です。

2「グローカルマネジメント副専攻プログラム」について

「No. 1 グローカル大学宣言」を具現化すべく、本学では、平成 27 年度より学士課程の副専攻プログラム「グローカルマネジメント副専攻」を新設することになりました。ここに、副専攻プログラムの内容についてご紹介します。

1) 育成すべき人材像

地域と世界を結び、北海道経済の活性化を担う「グローバル人材」を育成します。徹底した外国語による教育を実践し、卒業時には、海外とのビジネスに必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、外国の大学・大学院に正規留学するのに必要な水準まで語学力を鍛えます。

2) プログラムの内容

副専攻に所属する学生は、所属している学科で主専攻の学問を学びながら、同時に副専攻プログラムを学んでいきます。3 つの科目群「地域キャリア教育科目群」、「グローバル教育プログラム科目群」、「言語文化教育科目群」から合計30単位以上を修得することで副専攻の修了証書が授与されます。

なお、最大 18 単位までは主専攻の卒業所要単位に参入することができます。つまり、プログラム 受講者にとっては、一般学生より 12 単位分が純増分となります。

(1)「地域キャリア教育科目群」(6単位以上)

地域教育とキャリア教育を行うための科目群で、地域社会と連携した教育を行います。官民と連携した授業科目「地域学」を新設しました。本学は北海道、小樽市等と包括連携協定を締結していますが、これら協定先から、自治体職員や地元経済人を講師として起用し、北海道の現状と課題について学びます。また、机上で学ぶだけではなく、学生が街に出て、企業や団体と協力し合いながら課題に取り組むPBL授業、「地域連携キャリア開発(マジプロ)」や「インターンシップ」を新たに「社会連携実践」という科目名に名称を変更し、内容を充実させていく予定です。

これらの科目を学ぶことにより、地域視点を養い、地域社会の一員としての意識、意欲および責任感を育成します。

(2)「グローバル教育プログラム科目群」(18単位以上)

英語で経済学・経営学の基礎を留学生と共に学びます。「グローカル教育プログラム科目群」の授業科目は、海外の協定大学からの留学生向けに用意していた教育プログラムの授業科目を改め、副専攻プログラム所属の日本人学生と留学生がともに学ぶ形式の授業としています。これにより、海外留学して授業を受けるのと同じ環境を学内に作り出し、英語による知識の獲得を目指します。

(3)「言語文化教育科目群」(6 単位以上)

外国語と異文化理解について学ぶ上級言語科目を配置しています。 1 年目から 4 年間継続的に言語コミュニケーション能力を向上させる科目を履修することができます。

なお、副専攻プログラム実施にあたって、授業科目「アジア・オセアニア事情」、「ヨーロッパ事情」、「アメリカ事情」を新設しました。「アジア・オセアニア事情」では、アジア・オセアニアの大学における3週間の語学研修、「ヨーロッパ事情」では本学協定校が実施しているサマースクールへの参加、「アメリカ事情」ではボストン市内で本学の特別授業を実施することを予定しています。

3) プログラムの受講資格等

プログラムの対象者は、2年次生以上とし、後期からプログラムをスタートさせます。

(1) プログラムの受講者数及び受講要件

【受講者数】 本学の正規学生 30 名程度

【受講要件】 本学に1年以上在籍し、本学学部のいずれかの学科に所属し、かつ以下の要件を全て満たすこととしています。

①学業成績の優れた者 (GPA 2.8 以上)

②優れた語学力を有する者(IELTS 5、 TOEIC 550、TOEFL pbt 480、 ibt 56 点、実用英語技能 検定2級以上、これらの内の何れかの基準を満たしていること)

上記条件が厳しすぎるのではないかとの声も聞かれましたが、リサーチしたところ、GPA2.8以上の学生は1学年で100名以上います。なお、副専攻プログラム修了者には、副専攻の修了証書を授与します。

本学では、このプログラムを実施するにあたって、きめ細かな修学管理を実施することとしてい

ます。具体的には、プログラム専用の基礎ゼミ(グローカルセミナーⅠ、Ⅱ)を開講し、履修指導 教員による修学管理を行います。また、学生のプログラム参加時の外国語コミュニケーション能力 を客観的に把握し、プログラム修了時までの到達目標を設定させ、継続的な修学管理を行います。

なお、プログラム履修者には海外留学の機会が与えられます。日本オラクルの元会長佐野力氏(本学卒業生)からの寄付金により基金を設立し、留学生には返還の義務がない給付型の奨学金が支給されます。

本学では、本プログラムの活性化が本学グローバル教育の推進に重要な役割を担うものと考えております。プログラムの実施には、北海道の自治体・企業等の協力が不可欠となっています。つきましては、今後とも本学へのご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

最後に、本副専攻の「アメリカ事情」科目のプログラム作成にあたっては、北海道総合政策部知 事室国際課 櫻井達美 様、マサチューセッツ・北海道協会 森田喜代子 様に大変お世話になりまし たこと、この場を借りてお礼申し上げます。

マサチューセッツDAY 2015 ・・・ 2月7日、道庁赤れんが庁舎にて開催

北海道は、1990年(平成2年)2月7日に米国マサチューセッツ州と姉妹提携をし、訪問団交流や交流事業を継続してきています。1993年(平成5年)8月に滝川市とスプリングフィールド市とが、さらに1997年(平成9年)11月には七飯町とコンコード町とが、それぞれ姉妹提携を結び、非常に熱い交流活動が継続されています。

去る2月7日(土)、「マサチューセッツDAY2015」〜北海道・マサチューセッツ 州姉妹提携25周年記念セミナーが、北海道庁国際課主催、北海道・マサチューセ ッツ協会共催。在札幌米国総領事館・北海道国際交流協力総合センター後援で実 施されました。参加者は、学生60名を含めて合計約100名でした。



ジョエレン・ゴーグ首席領事

会 場: 道庁赤れんが庁舎2階2号会議室 10:00~12:00

接 拶:北海道知事室平野正明次長、北海道・マサチューセッツ協会森本正夫明会長の姉妹提携25周年記念の挨拶。 特別講演:「How to Become an International Citizen」在札幌米国総領事館 ジョエレン・ゴーグ首席領事

記念講演:「北海道開拓期のマサチューセッツ人脈について」

北海道・マサチューセッツ協会理事・事務局長 中垣 正史

平成27年度 理事会・総会及びミニコンサートの予定について

平成 27 年 4 月 22 日 (火) 午後、KKRホテル札幌 3 階会議室「エルム」で、新年度理事会(14:00~)・総会(15:10~)を開催します。理事会・総会は、前年度事業報告・一般会計決算報告、新年度事業計画・一般会計予算案・姉妹提携 25 周年事業案、新年度役員選出などを議題とします。

また、今回のミニコンサートは、「篠笛」の山口千那先生をお迎えします。山口千那先生は、日本の伝統楽器である「篠笛」の演奏活動をライフワークとして、2001 年以来、札幌を中心に道内各地をはじめ、全国的な演奏会活動を展開しています。 道新文化センター(札幌・帯広)の講師もされています。

平成27年度 イベント・交流事業の予定について

・ 4月22日(水) 平成27年度 理事会・総会及びミニコンサート

・ 6月27日(土)~28日(日) 十勝・帯広歴史探訪コース(1泊2日バスツアー)

 ・10月
 姉妹提携 25 周年記念セレモニー (未確定)

 ・1月31日(日)
 国際交流ランチセミナー「節分豆まき」

新入会員紹介(2014 年 12 月 10 日以降) <個人会員> 堤 悦子 遠藤 昌子



(法科大学院)

[大学]

- ●経済学部(1部·2部)/経済学科·地域経済学科
- ●経営学部(1部) /経営学科·経営情報学科 (2部) /経営学科
- ●法 学 部(1部·2部)/法律学科·政治学科
- ●人文学部(1部·2部)/日本文化学科·英米文化学科
- /社会環境工学科·建築学科· ●工 学 部(1部) 電子情報工学科·生命工学科

海 商 科 大

[大学院]

- ●商学研究科/ビジネス専攻
- [大学]
- ●商 学 部/商学科·観光産業学科

北海高等 HOKKAI HIGH SCHOOL

●普 通 科 /特別進学コース・進学コース

学園札幌高等学校

HOKKAI-GAKUEN SAPPORO HIGH SCHOOL

●普 通 科 /特進コース・進学コース

学校法人北海学園 森本正夫

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL(011)841-1161(代表) http://www.hokkai-t-u.ac.jp